

平成 2 6 年

美里町産業活性化戦略会議 会議録

第 4 回 1 2 月 2 2 日

美里町産業振興課

美里町産業活性化戦略会議（第4回）

会議年月日	平成26年12月22日（月）
会議の場所	中央コミュニティセンター 第3研修室
開会時間	午後4時00分
閉会時間	午後5時30分
出席者	<p>委員</p> <p>栗野敏夫 涌井良宣 尾崎勝 渡部憲明 渡邊新美 武田正晴 佐々木幸子 新田耕一</p> <p>アドバイザー 高力 美由紀</p>
欠席者	<p>委員 直枝朝子 菅原都 三神新 オブザーバー 山内一也 アドバイザー 菊地 郁</p>
職務上の出席者	<p>町長 相澤清一 副町長 佐々木 守 産業振興課長 大友義孝 産業振興課商工観光室係長 阿部伸二 産業振興課主査 川名秀明 産業振興課主査 木村 敏</p>
会議案件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 町長あいさつ</li> <li>3 美里町産業活性化戦略会議のこれまでのとりまとめについて</li> <li>4 意見交換</li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol>
司会：川名主査	1 開会 午後4時
相澤町長	<p>町長あいさつ要旨</p> <p>第4回目の産業活性化戦略会議にあたりあいさつを申し上げます。 年の瀬も近くなり、何かとお忙しい中お集まりいただき、厚く御礼申し上げます。おかげさまで7月28日の第1回目の会議から本日で4</p>

	<p>回目となり、町の活性化に向けての方向性について、皆さまにご議論いただき、さまざまご意見を頂戴しました。12月議会においても議員の関心は高く、町民の期待も大きいようです。そのような中で、まず委員皆様からいただいた意見をソフト面に反映させ、内容をしっかりと固め、ハード面の議論に入っていきたいと考えております。</p> <p>また、先般、11月15日に改正地域再生法が通り、農地転用や農振除外の手続きの規制緩和が行われました。今後、事業を進める上では、後押しとなると実感しているところでございます。</p> <p>本日の資料は今まで頂いた意見を反映させた形でお配りしております。今年最後の会議となりますが、来年度に向けてしっかりとした方向性を出していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。</p>
司会：川名主査	<p>それでは次第に沿って進めて参ります。なお、これより渡邊座長に会議を進めていただきます。</p>
座長：渡邊委員	<p>3の美里町産業活性化戦略会議のこれまでのまとめについて、事務局より説明をお願いします。</p>
大友課長	<p>これまでの3回の会議を踏まえた内容について資料をもとに説明。</p> <p>1. 目的、2. 内容、3. 位置付け、4. 現状と考察、5. 重点項目、6. まとめについて、ポイントのみ説明をする。</p>
大友課長	<p>なお、第3回の会議録について、委員より修正の申し出がありましたので、修正させていただき、後日、委員の皆さまにお届けさせていただきます。</p>
座長：渡邊委員	<p>4. 意見交換に入ります。</p> <p>委員皆様より忌憚ない意見をいただきたいと思っております。</p>
尾崎委員	<p>P3の(2)人材に関する観点からの6)6次産業化を促進し、新たな町の名物などを研究・開発できる施設が必要である。とあるが、この項目については、(3)核となる施設の必要性の観点からの中に入れた方がいいと思うのですがいかがでしょうか。</p>
大友課長	<p>6次産業を推進するような人材をベースに研究・開発できる場所というように意味合いで、(2)に入れてまとめましたが、委員さんがおっしゃる通り、施設、設備のウエートが大きいのと思われますので(3)の施設の必要性の観点からへ移動し整理させて頂きたいと思っております。</p>
武田委員	<p>美里町は旧小牛田町と旧南郷町が合併してできた町である。そのような中、各地域で分散して開催されているイベントなどは、今後も今まで通り各地域で開催していくのか。または、活性化施設をメインとしてまとめて開催していくのかという部分は大きなテーマになるのかなと思っております。</p> <p>また、場所についても国道108号沿いということで進んでおりますが、個人的には、小牛田駅周辺で人を呼べる場所を開発するのもいい</p>

	<p>のではというイメージをもっていました。現時点での事務局の考えを聞かせてください。</p>
大友課長	<p>一つ目のイベントの開催場所については、地域の特色を生かしたイベントとしてこれまでの形を踏襲する方向です。なお、それぞれのイベントを繋ぎ合わせる仕組みづくりが今までなかったので、活性化施設を中心にそのような仕組みづくりもやっていきたいと考えております。</p> <p>二つ目の場所の問題については、いろいろなご意見がありますが、J R小牛田駅周辺に整備するのも一つと考えますし、国道108号線沿いを考えた場合でも、現在素山公園に保存されているSLを移動し、鉄道をポイントとしたにぎわいを演出するのも一つと考えております。</p> <p>なお、先ほど町長からの話でもあったように、改正地域再生法がスタートしました。国道108号沿いをみるとほとんどが農地で農振法や農地法の網があり、本来すぐに開発できる土地ではありませんが、規制緩和により開発のスピードは上げられるものと感じております。</p>
新田委員	<p>会議にあたり、資料を読ませていただいたが、これまでの内容をうまく網羅されていると感じました。その中で(3)の3)後継者不足の問題がある中で、若者が集まる拠点として、若者の夢を集約した形の施設が必要である。とありますが、この部分について具体的なイメージは何なのかなと考えておりました。近隣の施設でも一時的には繁栄しても衰退している施設を見かけますし、長期的な展望で若者が継続的に係わるような何かというものが具体的にイメージできないので、その辺の取組みはどう考えているのでしょうか。</p>
大友課長	<p>人を集めるためにどのような工夫をするかということはポイントであると認識しています。委員皆様からいただいた意見の集約はしておりますが、なかなか絞りきれないのが現状です。今後、外部の意見などを取り入れ、絞り込んでいきたい。</p>
相澤町長	<p>後継者の問題については、農業の後継者にとどまらず、町全体の後継者という観点で考えていきたい。会社員、自営業など業種にこだわらず、この町に関わる若者が集える場所と考えている。いろんな業種の若者が集まる場所からインパクトのある何かを発信できればいいというイメージである。</p>
佐々木委員	<p>会議録を読ませていただいて、私のところの文書が「～すべき」という強い口調でまとめていただいたが、そのような強い口調ではなく、あくまで参考意見としてのまとめ方をしていただければと思います。</p> <p>(3)の1)町内では、(中略)限られている。という一文があるが、花野果市場などは300種類の商品を扱い、会員は220を数える実績がある施設である。そのような所を目指していくのかなと思うので</p>

	<p>すが、ここを見ていると若い方よりも高齢者が多く、高齢者の生き生き対策にもなっていると思います。「～限られている。」という断定的なまとめ方にしないほうがいいと感じました。また、P 4 の 5) の「ラボ」のようなイメージとはどういったようなイメージなのでしょう。実は最近、親族でパン工房をオープンさせ、南郷地域でとれた小麦を使ったパンを製造しようとしたところ「製粉所」が県内に登米の迫地域にしかなく、そこで製粉したという経緯があった。例えば活性化施設内に、「製粉所」の機能などもあれば、幅が広がるのかなと感じます。</p>
川名主査	<p>「ラボ」について説明。</p>
栗野委員	<p>P 3 (2) の 5) について、女性の力や高齢者の栽培技術を活かしていく必要がある。とあるが、現在のシルバー人材センターのようなシステムを拡大して女性の力や季節的に農家の労力が余っている時期などにスキルや労力を集約し活用できるようなシステムが出来ればよいと思う。</p> <p>また、昨日まで仙台で物販を行ってきたんですけどもその中で、ハニーローズで作ったバナナ（販売用ではない）をご馳走になった。そのことをわたしのフェイスブックにアップしたら、反響がすごかった。意外なものの反響のすごさを感じたし、そういったものを探したり作って行けばいいと感じた。</p>
涌井委員	<p>「後継者」の問題のところは私もひっかかっているところである。先日行われた「まちコン」で訪れた大学生や、小牛田農林の高校生の受け入れなどを通じ、私が若い方々に発信してきたのは「後継者問題」の話である。なし部会でも現在 45 戸の農家で 12 ha の規模でやっているが、10 年後には面積が半分になるのではという危惧がある。果樹園を貸すにしても大半が自宅屋敷内の果樹園であったり、地代が田んぼなどの農地と同じ価格ということで（果樹園を開設したときの設備投資に見合わなく安い）、なかなか貸借も進まない現状であると思う。</p> <p>2 点目は「商工会」という雑誌の中で、南アルプス桃源郷フルーツプロジェクトの記事が載っており、南アルプス商工会が中心となったプロジェクトで、わが町でも大々的に農産物を売り出すには、商工会の力が必要であると感じます。</p> <p>3 点目は登米市米山のマンゴー栽培も気になっているところです。</p>
座長：渡邊委員	<p>商工会では、物を売ったり、景気・経営対策をしたりなどのほかにそういったことも手掛けていかなければならないと感じております。</p>
相澤町長	<p>今、涌井委員よりいい話を聞くことが出来たが、稲作との複合経営の中で、梨というのは利益があがる作物の一つであると感じている。利益があがる作物であれば、後継者も育てやすいと思うし、その後継者</p>

	になり得る人に農地を貸し出す仕組みを町としても情報発信したり、環境づくりを行っていききたい。
涌井委員	シルバー人材センターでも被災地域に人が流れて人材不足のようである。そのような中、高齢者でも若い女性でもできる果樹栽培などに新規の若い女性が流れるような方策もいいのではと感じる。
渡部委員	資料を拝見させていただき、うまくまとまっていなかったものの事業の具体性の部分での整理が進んでいない状態であると感じる。現状は役場の職員も2足のワラジを履いて仕事をしている感じがありますので、今後はぜひ、専門のプロジェクトチームを作ってください、この仕事に集中できる環境が必要になって来ると感じます。そのような中で外部の経験者などを招き、一つひとつの課題を整理する時期に来ているのではないかと思います。 また、現状の6次産業化を見ていると頭打ちの状態なのではと感じることがあります。短い期間の6次産業化で農水省の補助金などはどれほど効果があるのか疑問ですし、継続性は難しいと感じます。
相澤町長	渡部委員がおっしゃるとおり、そういった時期にきていると認識しております。町としても次のステップに着実に入れるよう新年度に向かって進めていきます。
渡部委員	最近の農業部門でのキーワードで「農女」という言葉がある。今後ますます若い女性の意見が大事になってくると感じます。
涌井委員	情報提供としてお話しします。 認定農業者の研修で滝沢市に行ってきたが、6次産業化の関係で女性の事業参加がとても増えてきていると伺ってきた。たまたま旧南郷町出身の女性の方で、「干しイモ」を商品化しており、花野果市場でも商品を置いているとのこと。商品化のノウハウを南郷地域の方々は熱心に聞いていたようです。 また、小牛田農林高校の霜降りレッドのエサに三本木のひまわりの種を使ったところその豚が最優秀賞を受賞したとのことで、そのアイデアは非農家出身の女生徒のアイデアだったようです。
高力アドバイザー	アドバイザーの立場からお話しさせていただきます。 皆さんの意見にもありましたとおり、資料はよくまとまっていると思います。今後のポイントはこれらの意見をどのように具体化していくのかの道筋を立てることが大きな課題ではないでしょうか。それにあたり、原点にもどることが大事だと思います。最初の資料の中に「あ」「さ」「ひ」というキーワードをコンセプトに考えていきましょうというのがありました。ぜひまとめについても「あ」(3)「さ」(1)「ひ」(2)のコンセプトを入れた形でまとめるのがいいと思います。最初のイメージをもったままで皆様の意見を取り入れながら、現状のまとめをするのがストーリーづくりにはよろしいかと思います。

	<p>もう一つは、具現化していく中ではプロジェクト（チーム）でやっていかざるをえないと思います。専門のチームをつくり、その中に外部の力がある程度入れながら進めていくのがいいのでは。ただし、町のコンセプトがしっかりまとまっていないと外部の人間は分からないので、それをしっかり分かっていたくためにも土台作りは重要です。</p> <p>渡部委員から6次産業化の意見がありましたが、私も6次産業化は難しいと考えております。6次産業化の本当の意味は農商工連携であると認識しています。お互いの良さを引き出すような連携があるべきで生産者がすべて自分でやろうとしたら失敗の元で、お互いの得意な分野で支え合うようなゆるい関係が理想と思います。</p> <p>最後に外部の力を上手く取り入れるときに、今までの偏見を捨てていくことも重要です。小売りの王者であるセブンアイホールディングスの客観的な指標を参考にするとかローソンなども地元の食材を探しているようですので、そういった力を具体的かつ規模的なものを精査し上手く利用するのも一つだと思います。</p>
尾崎委員	<p>活性化施設の具体的なイメージとして先進事例はどういったものか、職員はどんどん見てくるべきと感じます。行政主導で作上げた優良事例は全国にたくさんあるはずですから、プロジェクトメンバーを中心に視察を重ね、イメージ作りを具体的にしていければよろしいかと思います。</p>
相澤町長	<p>先日、栃木県的那須において道の駅の全国会議でしたけれども事務局3人とともに参加し、講演を聞き意見交換をさせていただきました。また近隣の優良事例は積極的に視察しております。なお、ほかの先進地の良いところは、どんどん視察をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
涌井委員	<p>美里町の国内における姉妹都市はありますか。</p>
相澤町長	<p>災害協定などを結んでいる自治体はあるが、姉妹都市はありません。会津美里町や東京の足立区などとは物産観光協会を中心に物販交流などを行っているが、沖縄県の読谷村などとの交流も模索していきたいと思っております。</p>
座長：渡邊委員	<p>その他ございませんか。</p>
大友課長	<p>本日お渡ししている資料は、これまでの意見を中心にまとめさせていただいたものですが、今日の意見も入れた形で、最終的に資料をまとめさせていただきます。委員皆様には、まとめについての考え方はご理解いただいていると思っておりますので、座長を中心にまとめさせていただければと考えておりますがどうでしょうか。</p>
座長：渡邊委員	<p>これまでの意見と、本日いただいた意見を座長を中心にまとめるといふことでしょうか。</p>

大友課長	そうです。ただしこれはあくまでも方向付けとなりますので、これをもとに具体化するための方向付け（計画）について、外部の意見を聞きながら、進めて参りたいと思います。26年度中に具現化するための計画を示せばいいのですが、3か月という短い期間ではそれも難しいので、平成27年度中の早い時期に委員皆様にお示ししたいと考えております。
佐々木副町長	平成27年の3月末までに、平成27年度以降の行動計画なども委員の皆さまにはお示しできればと考えています。
座長：渡邊委員	よろしいでしょうか。
委員	異議なし。
座長：渡邊委員	ありがとうございました。 これで意見交換を終了し、事務局に移します。
司会：川名主査	その他なにかありますでしょうか。
委員全員	特になし
司会：川名主査	特になければ、閉会のあいさつを佐々木副町長が行います。
佐々木副町長	閉会のあいさつ
司会：川名主査	8 閉会宣言 午後5時30分

会議の経過を記載して、相違ないことを証するためここに署名する。

平成26年12月 日

美里町産業活性化戦略会議 座 長 -----

-----